

Pon's

PON'S  
2026年 49

医療法人一祐会  
藤本病院グループ  
広報誌『ポンず』

## CONTENTS

- 3 藤本病院のリハビリテーション vol.2
- 9 一祐会ニュース
- 16 理事長あいさつ
- 18 表紙作品の紹介
- 18 ポンちゃんニュース！
- 19 藤本病院グループ施設紹介

# CONTENTS

寝屋川市に暮らす皆さんの健康促進を目的に医療・介護をはじめとするヘルスケアに関する情報を発信するとともに、藤本病院グループ施設「藤本病院」「介護老人保健施設 ハーモニイー」「サービス付き高齢者向け住宅 シンフォニー」「藤本病院訪問看護ステーション」「藤本病院居宅介護支援事業所」の情報を掲載いたします。

**広報誌『ポンず』は**



『ポンず』というタイトルは、藤本病院受付にいるスッポンの「ポンちゃん」から名付けられました。ポンちゃんがキャラクターとなり、当広報誌を収めます。

- 3 藤本病院のリハビリテーション vol.2
- 9 一祐会ニュース
  - ・「医療の改善活動全国大会 in 北九州」で当法人が発表（一祐会）
  - ・2025年度 一祐会 研究発表大会を開催（一祐会）
  - ・訪問看護のパンフレットが新しくなりました  
(藤本病院訪問看護ステーション)
- ・『とれとれ活造りショー』を開催しました（ハーモニイー）
- ・小寺介護福祉士が「大東ウンドオーケストラ」と歌唱共演！  
(ハーモニイー)
- 16 理事長あいさつ 年頭にあたって
- 18 表紙作品の紹介
- 18 ポンちゃんニュース！
- 19 藤本病院グループ施設紹介

# 藤本病院の リハビリテーションvol.2

## ●全身のチームワークによって 支えられる日常生活

私たちは毎日、全身のあらゆる部位が運動することで生活が支えられています。しかし、その「一つひとつ」の動きを「どの筋肉をどう動かすか」と意識して生活している人はいなはづです。

例えば、「トイレに行く」という何気



前号では、リハビリとは何か、その目的や早く始めることのメリットなどを「リハビリテーションvol.1」として取り上げました。続号となる今回は、より具体的にリハビリの内容について取り上げます。

もしも自分や家族が、病気やケガで入院し、リハビリを受けることになったら…。事前に少しでもイメージをつかんでいただき、実際のリハビリで不安や疑問が少ない状態で臨んでもらうだけだと思います。

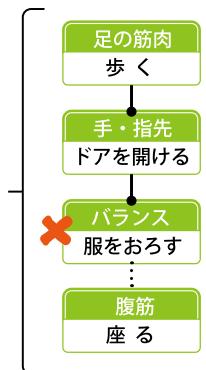
### 前号のおさらい

リハビリとは、病気やケガ、加齢によって生じた心身の機能障がいに対し、可能な限り、その能力を回復もしくは維持していくことで、日常生活や社会生活を再び自分らしく送れるようサポートすることです。



×トイレに行く

一部が機能しなくなるだけで、できなくなってしまう。



む間もなく連携しているのです。もし、ケガなどで、指先一つ、あるいは足の筋力の一部が機能しなくなるだけで、この「当たり前」は途端に困難になります。私たちの日常生活は、体の全部がチー

トロールする内臓の神経まで、全身が休む間もなく連携しているのです。

ムワークを発揮することで守られています。

病気やケガ、加齢によって、機能が低下すると、リハビリを通して、トレーニングを行い能力を回復させたり、これまでと違った方法を探ったり、補助具で補う、などの解決策を検討します。退院後、自宅に戻った後も、できるだけ自立した日常生活が送れるようリハビリ専門の療法士が一緒に考えます。

### ●リハビリのための設備・機器

リハビリにはさまざまな設備・機器が用いられます。大きい設備から、小さな道具まで数えると、その数は100種類以上になります。藤本病院のリハビリセンターには、自宅環境を想定した設備や、機能回復のための道具が整えられています。その一部を次に紹介します。

#### シンクロウェイブ



身体を左右に揺らし、脊椎を正しい位置に戻すとともに、柔軟性の向上を図ります。

#### 自転車エルゴメーター



ペダルをこぎ、全身持久力の向上を図ります。運動量を正確に測定できます。

### ●リハビリの専門家

理学療法士、作業療法士

言語聴覚士に聞きました。

リハビリを担当する専門職には、立つ・歩く・座るなどの**基本動作**を担う「**理学療法士**」、トイレに行く、料理をするなど**生活動作**担当の「**作業療法士**」、食事・コミュニケーションを専門とする「**言語聴覚士**」がいます。

それぞれの仕事の特徴や、大切にしていることなどを藤本病院リハビリーション科のスタッフに聞きました。

#### 言語聴覚療法室



防音などに配慮した言語聴覚のための個別療法室です。聴く、しゃべるに特化して評価・訓練を行います。

#### 入浴シミュレーター



浴室を模した装置で安全に入浴できるか練習・確認するリハビリ設備です。

#### 低周波治療器



皮膚の上から微弱な電気を流し、痛みの緩和、筋肉を動かす、血行促進を図ります。

## 理学療法士 (PT)

基本動作の  
回復・維持・悪化防止

福田 理学療法士は、病気やケガによつて低下した

「起き上がる」「座る」「歩く」といった基本動作の回復・維持・悪化防止を専門とする職種で、通称「PT」(Physical Therapist)と呼ばれます。



福田 勇太  
理学療法士

当院の急性期病棟では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士とも、患者さんが入院してから退院するまで、一貫して同じスタッフがサポートする「担当制」を採用しています。これにより、患者さんと深く、長くコミュニケーションを取ることが可能となり、信頼関係を築きやすくなります。

リハビリでは、何よりも患者さんとの「信頼関係」が大切だと考えていました。リハビリは時に痛みを伴い、心身ともに「しんどい」作業です。だからこそ、患者さんのやる気を引き出すため、お話をすると中でどのような声掛けをするべきか考え、一人ひとりの心に寄り添いながら向き合うことを大切にしています。患者さんの意欲の有無で、同じリハビリ時間でもその

効果には大きな差が生まれます。だからこそ、まずは退院後の理想の姿を一緒に思い描き、目標を持って臨んでいたたきたいと願っています。「できなくなつたこと」への辛さと共に感しつつ、少しでも自立へと近づけるよう、共に考え、歩んでいくパートナーでありたい。それが理学療法士としての想いです。

また、患者さんの状況や声を、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの多職種と共に患者さんとの「架け橋」になれるよう意識しています。

## 作業療法士 (OT)

その人らしい  
生活ができるよう  
人生に向き合う

中橋 作業療法士

は、排泄、入浴、着替え、食事といった「セルフケア」から、家事や買い物などの「生活に関連する動作」まで、退院後の暮らしを自分らしく送れるよう支援する専門職で、通称「OT」(Occupational Therapist)と呼ばれます。

私たちのリハビリは、患者さんの価値観やこれまでの生き方を尊重するところから始まります。病状、年齢や障がいのみで判断するのではなく、「どのような生活を送りたいか」という本人の想いに耳を傾け、今持っている力や

中橋 友里恵  
作業療法士





可能性を最大限に引き出し、代替案や身体の動かし方をアドバイスしながら解決法と一緒に考えていきます。

当院は、認知機能の評価に基づいた個別支援と、週に一度の複数人での活動を取り入れた「集団リハビリ」があります。壁画制作やカラオケ、卓球大会などを通じて、他者との交流しながら「笑って過ごせる入院生活」を目指し、工夫しています。楽しみながら身体を動かすことは、一人で訓練するよりも自然な動作を引き出し、地域社会へ戻るための心の準備にもつながります。

リハビリを効果的に進めるポイントは、入院前から「ちよつと困っていたこと」（浴槽のまたぎにくさ、買い忘れなど）を教えていただくことです。それにより、手術の影響ではない潜在的な課題に気づき、より適切な方法を検討できます。リハビリでは、できなくなつた自分に落ち込む気持ちがあると思いますが、私たちは「できないこと」を数えるのではなく、リハビリを通して「できるようになったこと」と共に喜びます。人はずっと成長していくまです。焦らず、あなたのペースで、小さな成功体験を積み重ねて一緒に頑張っていきましょう。

現在、入院中の方も、病気・ケガに関わりのない方も、未来の自分へ、備えていていただきたいです。人は誰でも、加齢や病気により、いつか口から食べられなくなる時がやって来ます。その時、「胃ろう」を作るのか、点滴に頼っていくのか、自然に任せなのか。元気なうちから自分はどうありたいかをご家族や友人と話し合っておくことは、自分らしい人生を守るために非常に大切です。

また、「口の健康」は全身の体力と直結しています。噛む力が落ちています。



## 言語聴覚士（ST）

食べる・コミュニケーションの専門家、おロケアで未来へ投資

**山本** 言語聴覚士は、「話す」「聞く」「食べる」「飲み込む」といったコミュニケーションや食事の機能を支える専門職で、通称「ST」（Speech-Language Hearing Therapist）と呼ばれます。

脳血管障害や誤嚥性肺炎、消化器手術後の方などを対象に、再び口から食べる

**山本一等  
言語聴覚士**



## 入院中のある1日のスケジュール

ると栄養不足になり、さらなる体力低下を招くという悪循環が生まれます。これを防ぐために、今から始めてほしいのが「口の体力作り」です。いっぱい話し、歌い、喉を使うこと。そして日々の歯磨きや定期的な歯科受診で口の清潔を守ること。これらは5年後、10年後、20年後の自分を助ける最高の投資になります。

私たちも、患者さんが最後までその人らしく、味わい、語り合える生活を送り続けられるよう、全力でサポートいたします。

### ●入院の1日の流れ

入院生活では、一日24時間の中、療法士と一緒にリハビリを行える時間は一部であり、非常に限られています。朝目覚めから食事、排せつ、入浴、空き時間というリハビリ以外の時間をどのように自律的に活動するかによって、回復のスピードは大きく変わります。もちろん、安全に活動していくことが大前提になります。

療法士、医師、看護師、医療ソーシャルワーカーといった多職種と密にコミュニケーションを取りながら、協力して患者さんの在宅復帰を目指します。

80歳女性のAさんは、発熱のため救急車で運搬入院。検査の結果「誤嚥性肺炎」と診断され、病棟での急性期リハビリテーションを受けています。(※スケジュールは状態や日によって変わります)

21:00	18:00	16:00	15:00	14:00	12:00	10:00	9:00	8:00	6:00
就寝	夕食	バイタルチェック	自主練習	午後のリハビリ	昼食	口腔リハビリ	医師の回診	朝食	起床・バイタルチェック
						清潔ケア			看護師によるバイタルチェック。
						PT 持久力練習、バランス・立ち座り練習(40分)			看護師による清潔保持、褥瘡(床ずれ)のチェック。
						ST 歯磨き、うがい、嚥下状態を確認、喉の筋トレ(40分)			疾患別に考えられた栄養バランスの良い入院食を食べます。
						OT 移動や服の着脱を含めたトイレ動作練習(40分)			
						病室で身体のストレッチや、下半身の筋トレ、腹式呼吸の練習			
						午後の活動による身体への影響の確認。			
						十分な睡眠を確保し、回復を早めます。			
						疾患別に考えられた栄養バランスの良い入院食を食べます。			

※バイタルチェックとは、「脈拍・呼吸・血圧・体温・意識レベル」等の測定を行うことです。

# リハビリQ & A

Q リハビリの適切な実施量・目安などはありますか?

ので、担当の療法士と時間調整の上、自主練カードをお持ちいただき、ご使用ください。



A 手術後すぐなのか、患部が安定した頃なのか状況がどの段階であるかにもよりますが、リハビリの量としては筋肉痛になる直前くらいが丁度良いとされます。

筋肉は運動によつて壊された組織が修復される過程で、元よりも少し太く強く再生されます。ですが、あまり強い負荷では、壊れた組織が回復するのに時間がかかります。加減が難しいですが、療法士が身体の状況を確認し適切な運動量を設定いたします。

また、リハビリには、栄養バランスのとれた十分な食事が欠かせません。栄養が取れないと、エネルギーを消耗するのみで筋肉が痩せ逆効果になるため、ドクターストップがかかつてしまします。

Q 入院中に自由にリハビリセンターで運動しても良いですか?

A リハビリには、療法士と一緒にを行うときと、ご自身で行う「自主練習」があります。これは、医師の判断のもと、自主練習を行つていただきたい方、実施が可能な方に「自主練カード」をお渡しし、空いている時間にご自身の病室やリハビリセンターで行つていただくのです。自主練カードには、最低限行つていただきたいメニューを記載しています。リハビリセンターは9時00分～11時30分、13時00分～16時30分の時間に開いています。

## 体力作りで 病気やケガ対策

まずは日々の生活の中で病気・ケガをしないよう心掛けましょう。運動不足や飲酒・喫煙、不摂生、また、加齢によって身体の機能は落ちていきますので、意識して運動することをお勧めします。

病気やケガは予防していくても起きてしまうもの。基礎体力や筋肉量を増やし維持しておくと、いざ入院して一時的に機能が下がつても、早い回復が見込めます。

## 寝屋川市の「ねやちょ筋プレミアム」

寝屋川市は、市民の「健康寿命の延伸」を目指し、「ねやちょ筋プレミアム」事業を行つています。この事業では、65歳以上の寝屋川市民を対象に、筋肉量や骨密度の大測定会を開催したり、食環境づくりのための提案を行つています。お気軽に測定会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

▼ねやちょ筋プレミアム  
事業の詳細はこち  
らをご覧ください。



## 「医療の改善活動 全国大会in北九州」で 当法人が発表



▲左から 小谷介護福祉士 阪口理学療法士  
塩見理学療法士 松本介護士

でその成果を発表しました。

リハーザ2025のテーマは「サマリー作成の負担を減らせ！」と書くから「選ぶ」へ。リハビリサマリーとは入院患者さんの身体状況やリハビリの経過を、ケアマネジャーや入所施設の担当者へ正確に伝えるための記録です。見直したサマリーでは、よく使いう項目は選択式にし、患者さんごとの特徴が必要な部分は文章で記載する新しい様式を作成。改善目標についていたサマリー作成の作業時間の短縮を達成することができました。また、情報の正確性も向上しました。

2025年11月14日・15日に開催された「医療の改善活動全国大会in北九州」（主催：医療のTQM推進協議会）に、当法人から、藤本病院リハビリーション科「リハーズ2025」と介護老人保健施設ハーモニー「チームハーモニー」の2チームが参加しました。両チームは去る8月に開催された「一祐会TQM活動発表大会」で金賞、銀賞を受賞しており、北九州

チームハーモニーのテーマは「STOP 転倒！大作戦」です。医療介護分野において転倒転落は永遠の課題であり、在宅復帰やその後の生活にも大きく影響します。転倒防止に向けて、発生場所や要因、入所者の認知機能に着目し綿密に検討。介護施設の中で転倒を減らすため、多職種カンファレンスの充実や、転倒リスクを3段階に色分けしたADLシートの作成など、さまざまな工夫を重ねました。さらに、「見守り」の定義を再確認するといった、基本的な視点の共有にも取り組みました。

## ■発表を終えたメンバーからは

「会場で全国の病院や施設のさまざま取り組みを知ることで、自分たちの活動の意義に気づくことができました。緊張しましたが、最後までやり遂げられて良かったです」

初めての参加で緊張しましたが、事前準備のおかげで伝えたいことをしっかりと伝えられたと思います。他の発表も参考になり、今後の取り組みに活かしたいです」と、声が寄せられました。参加を通じて大きな刺激と学びを得る機会となりました。

## 2025年度一祐会 研究発表大会を開催

医療法人一祐会

### ■8演題が発表される

去る12月6日、  
「2025年度一  
祐会研究発表大会」

が開催されました。

冒頭、法人本部  
の大原 了本部長  
が挨拶に立ち、「こ

これは、急性期病院における在院日数短縮という課題に対し、リハビリテーションプロセスと在院日数の関係、影響を与える要因を明確にすることを目的としたコホート研究です。

コホート研究とは、共通の特性を持つ集団（コホート）を長期間にわたって追跡調査し、特定の要因と病気の発症や健康状態の変化との関連を明らかにする研究です。



の大会では、日々の業務の

なかで抱いた疑問、お互いの工夫や苦労を共有し、気づきを持ち帰つてもらいたい」と、話しました。

## ■入谷理学療法士の研究が高評価

その結果、藤本病院 診療技術部リハビリテーション科の入谷 隆介理学療法士が発表した「リハビリテーションプロセスと急性期病棟在院日数の関係性に関する後向きコホート研究」が金賞を受賞しました。



入谷理学療法士は、2024年7月から翌年8月までの1年間、自身が担当した134名の患者さんの約3500件に及ぶデータを追跡し、重回帰分析を行い、次の3つが在院日数と有意な関連を示したと発表しました。

①リハ開始からADL評価までの日数

↓1日延長すると在院日数が約0.6日延長

②病棟への報告の有無

↓報告があつたケースでは、在院日数が約29日延長

③入院時ADL

↓1点高い（自立度が高い）と在院日数が約0.1日短縮

### ■銀賞、銅賞は…



銅賞は「超音波検査における脂肪肝診断～ATIの有用性について」を発表した藤本病院 診療技術部検査科の検査技師 相澤翼主任が受賞しました。

## 研究発表一覧

### ■藤本病院 診療技術部放射線科

「胸部CT撮影における被ばく線量の調査と低減の検討」

### ■藤本病院 看護部4階病棟

「病棟内で口腔ケアを効果的に行い誤嚥性肺炎予防に繋げる」

### ■藤本病院訪問看護ステーション

「介護用ベッドのリモコン操作の実態」

### ■藤本病院 看護部 2階病棟（本館）

「術後腹部の必要性について」

### ■藤本病院 診療技術部検査科

「超音波検査における脂肪肝診断～ATIの有用性について」

### ■藤本病院 看護部 産婦人科外来

「電話問い合わせテンプレート『産婦人科患者お問い合わせ事項』の有用性について」

### ■藤本病院 看護部 若草保育所

「食育～味わう・感じる・育つ～」

### ■藤本病院 診療技術部 リハビリテーション科

「リハビリテーションプロセスと急性期病棟在院日数の関係性に関する被ばく線量の調査と低減の検討」が選ばれました。

銀賞には、藤本病院 診療技術部放

射線科の放射線技師 永福と山田和

弥が発表した「胸部CT撮影における被ばく線量の調査と低減の検討」が

選ばれました。

## ■目の付けどころが良かった

成績発表と表彰式を終えたのち、一祐会・藤本明久理事長が総評を行いました。



「8つの演題とともに、目の付け所が良い研究でした。内容も興味深く、私自身の勉強につながり、今日は有意義でした」

「入谷理学療法士の研究発表は、ここだけの発表で終わらせるのではなく、外部の学会等で発表してもらいたいと思いました。いま、病介連携を進めていますが、介護関係の皆さんとの勉強会等で発表すると、地域全体がよくなつていくのではないかと思います」と、話しました。

ご希望の方に配布しております。

当施設は、寝屋川市一帯を対象に在宅や施設での療養を希望される方のもとへ、看護師・理学療法士が訪問し健康管理や医療的ケア、リハビリなどを行う「訪問看護」サービスを提供しています。

病気や障がいがあつても、住み慣れ

た場所で過ごせるよう専門職がサポートいたします。

## ■訪問看護の 対象となる方

- 病気や障がいをお持ちで、ご自宅や施設での在宅療養を希望する方



- かかりつけ医が訪問看護の利用を必要と認める方

## ■ご利用を希望の方は

ご自身のかかりつけ医、または担当のケアマネジャーに訪問看護を利用したい旨をご相談ください。



## 藤本病院訪問看護ステーション

訪問看護のパンフレットが新しくなりました。

藤本病院訪問看護ステーション



藤本病院訪問看護ステーションのパンフレットが新しくなりました。現在、藤本病院グループの各施設の受付にて

## 『どれどれ活造りショー』 を開催しました



普段とは違う利用者さんの姿を見ることができる」と話していました。

### ■2階（認知症棟）では

#### 「真鯛の三枚おろしショー」

2階では真鯛の三枚おろしショーからスタートしました。愛媛県産・2kg超の立派な真鯛を、調理師が目前で見事に三枚おろしに。入所者さんからは「プロみたいやな」と声がかかり、調理師が「練習してきました」と返し笑いが起きました。

### ■1階（一般棟・デイケア）では 「どれどれ活造りショー」を開催

1階では、生簀から魚を網で捕まえ、その場で締めてお刺身にする本番のショーが始まりました。

特設された生簀には愛媛産真鯛、シマアジ、ハタ、マアジ、カワハギなどの高級魚が元気に泳ぎ、職員が網で捕まると暴れて跳ね上がるほどの迫力でした。その他、サーモン、ブリ、マグロも盛りつけされました。

次々とお刺身が盛られていく様子を、デイケアの利

従来行っていた寿司バイキングに変わり、「いつもとは違う体験を！」を目的に企画されたイベントです。食べるだけでなく、泳ぐ魚を見る、さばく様子を間近で楽しむなど、さまざまな角度から「食の楽しみ」を感じてもらいたいという想いが込められています。企画した市原管理栄養士は「食のイベントを通して、たくさんの笑顔や、



用者さんやお昼ご飯を食べに来た入所者さんが興味深そうに見ていました。

入所者さんを対象に魚の絵の飾りを頭につけて記念撮影も行いました。

出来たてのお刺身

は入所・デイケアの利用者さんの昼食として提供されました。

メインのお刺身のほか、天ぷら、茶わん蒸しが並び、お刺身

の追加おかわりも用意され、大変好評でした。



### ■食が進まない方にも変化が

市原管理栄養士は他施設で行われていた「マグロの解体ショー」を見学したことがきっかけで今回の企画を思いつき、当施設で実施できる方法を調理師に相談しイベント開催に至りました



た。

「今回のイベントでは、普段は食が進まない利用者さんが、自ら『おいしい!』と笑顔で完食し、おかわりまでされる姿が印象的でした。スタッフ一同その姿に驚き、写真や動画をたくさん撮りました。嬉しくて空っぽのお皿まで思わず撮ってしまいました」と、話していました。

介護老人保健施設ハーモニー  
小寺介護福祉士が「大東  
ウインドオーケストラ」と  
歌唱共演!  
♪ ♪



去る2025年12月28日、大東市の市民楽団「大東ウインドオーケストラ」による定期演奏会『スイートコンサート』がサテライトホール（大東市新町）で開催されました。このステージに、当法人「介護老

人保健施設ハーモニーの通所  
リハビリ科長・小寺介護福祉士が  
歌唱ゲストとして出演し、コラボ  
パフォーマンスを披露しました。

### ■施設で愛される「歌声」が

#### 地域のステージ

小寺科長は、日頃からハーモニーの通所リハビリにおいて、自身の歌唱力を活かしたレクリエーションを行っています。利用者さんと一緒に歌い、音楽を通じて心身の活性化を促すその活動は、多くの利用者さんに笑顔と元気をお届けしており、当通所リハビリの名物レクリエーションの一つとなっています。

今回のコンサート出演は、そんな「音樂の力」を信じて活動する小寺科長と、当法人が毎年行う地域交流イベント「フジフェス」に出演いただいたり大東ウインドオーケストラとの想いが重なり、実現いたしました。

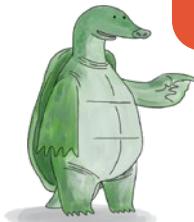
### ■会場が一体となつて「故郷」を合唱

コンサートでは、パワフルなプラスバンドの演奏に乗せ、和田アキ子にふんした小寺介護福祉士が「和田アキ子メドレー」(笑って許して、古い日記、あの鐘を鳴らすのはあなた)を熱唱。最後には会場の皆様と一緒に「故郷」を合唱しました。

### ■ワクワクする時間 を届けたい

出演した小寺介護福祉士は、「普段、音楽からたくさんのおエネルギーをいただいています。今回はそのエネルギーを大東市の皆様にお届けしたい」という思いでステージに立ちました。これらも歌を通じて、施設、そして地域の皆様に『ワクワクする時間』を届けていきたいです」と話していました。

小寺科長は、次回の  
「スイートコンサート」  
への出演も決定しています♪



# 理事長挨拶

## 年頭にあたって

されていくよう、私は努めていきたい  
と思います。



医療法人一祐会 理事長  
藤本病院 病院長

藤本 明久

新しい年の初めにあたり、皆さまにご挨拶を申し上げます。

実は、創業者の夫人であり、私の母である藤本三千恵（医療法人一祐会専務理事）が去る10月30日に逝去いたしました。享年92歳であります。生前中に賜りました皆さまからのご厚情に深く感謝いたします。

昨年は、藤本病院グループ70周年の年であります。母は病院の前身である「藤本医院」開院の日から、受付に立ち、主に経営に携わってきました。18歳で、父と結婚しましたので、当法人で最も長く事業に携わってきた人でした。

母は父に習い、事業を継続していく上で、「真面目であること」「誠実であること」を大切にしておりました。この教えが引き続き一祐会の職員一人ひとりに継承



## ■ 2026年は、 さらに連携が重要に

これまで地域の開業医の先生方と病院が連携を深め、入院や手術が必要なときは、患者さんの紹介を受け、手術や治療を行ったのち、紹介元の先生の

## ■ 地域密着型の サービスを目指す

昨年から、法人の未来像や価値観を整理し、明文化する取り組みを進めています。私たち一祐会が大切にしてきた価値観は

- ① 生命の尊重
  - ② 地域社会との共創・共生
  - ③ 誠意ある姿勢
- の3つに整理されました。これは、目新しいものではなく、創業者の時代から続く価値観です。

新しい年、2026年は、特に「地域社会との共創・共生」を意識し、病院介護老人保健施設、サービス付き高齢者向け住宅、訪問看護、居宅介護支援事業所のいずれも、「地域密着型のサービス」を意識した運営に取り組んでいきたいと思っております。地域で暮らす皆さんへの、医療や介護の困りごとを解決し、お役に立てる存在であり続けたいと思います。

ところに戻つていただき、経過観察をする・・・という流れがでてきておりました。これを「病診連携」とよびます。同様に地域の病院同士も「病病連携」を行つています。

政府は一昨年から、病院と介護施設との連携を強化する「病介連携」を進めるよう、新たな制度を作りました。具体的には、病院と介護老人保健施設や特別養護老人ホームが、事前に「協定書」を締結し、「協力医療機関」となり、その施設の入所者さんの緊急時の受診、入院受け入れを行なうほか、24時間、連絡を受ける体制をとるものです。

介護施設の多くは、医師が常駐しておらず、看護師の配置も限られます。高齢者の増加に比例し、施設で暮らす方も増え続けていることから、病院と介護施設が日頃から連携し、速やかな対応ができるようになります。藤本病院では協定を結ぶ施設を増やし、より多くの方の役に立てるよう進めてまいります。

## ■在宅サービスの充実に取り組む

昨年、2025年は、全国に約800万人にのぼる「団塊の世代」の皆さん、全員後期高齢者になられました。今後、医療、介護サービスを求める方が増え続けていきます。

在宅ですこやかに暮らす方法として「通所リハビリテーション」があります。私どもではハーモニイーで行つております

新しい年も、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

が、近年、利用者が増加し、昨年、定員を35名から40名に変更しました。プログラムに工夫を凝らし、お一人おひとりの身体状況に合わせた内容になつております。

自宅で暮らし続けるための在宅サービスとして、訪問診療と訪問看護をしております。

訪問診療は、ご自宅だけでなく、サービス付き高齢者向け住宅のような医師が常駐しないところにもお伺いしています。訪問看護ステーションでは、療養のための看護と合わせ、理学療法士による訪問リハビリも行つております。昨年、訪問診療は申し込みをお断りする時期がありました。新しい年は、体制を整え、サービスの充実を図つてまいります。

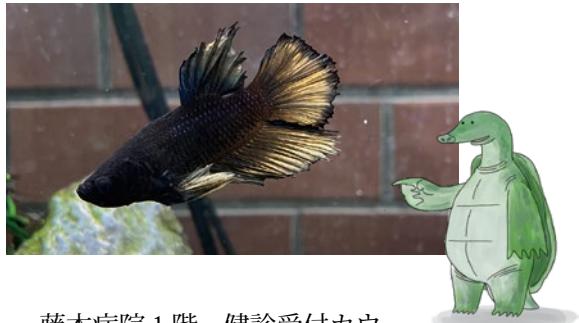
## ■おわりに

今年は藤本病院グループ71年目の年であります。次なる目標は2025年の創業100周年です。その頃、日本では、1人の高齢者の年金を、1・2人で支える社会になるといった予測があります。高齢者も現役世代も幸せに暮らせる社会を作る上で、医療・介護の事業者である私たちは、地域と時代に合わせたサービスの創造に努めてまいります。

# ポンちゃんニュース！

当法人内の生き物たちの情報をポンちゃんが紹介します。

## “闘魚”の和名をもつ 「ベタ」が新しく仲間入り！



藤本病院 1 階 健診受付カウ

ンター横の水槽に、12月より「ベタ」が仲間入りしています。ベタはタイ原産の魚で、エラの中にラビリンス器官を持っているため、空気中の酸素を直接取り込むことができます。そのため、水中の酸素が少ない状況でも生存できるので比較的簡単に飼育できます。

また、”闘魚”という和名を持っており、名前の通り非常に強い闘争心を持っています。オス同士では常に威嚇・攻撃を繰り返すため、2匹以上は同じ水槽で飼えず、カウンター横の水槽には1匹しかいません。

# 表紙作品の紹介

当広報誌は法人内の「絵画部」部員の作品を表紙に使用しています。常務理事 石山 愛の作品「ハスの花」です。



「ハスの花」  
石山 愛

### ◆ 作者の「メント」 ◆

若い頃、池にハスの花が咲くところを見たいと思いながら、なぜか見る機会のないまま、ハスの花への憧れだけが強くなつていきました。

想像の中では泥の中で美しく咲くハスの花ですが、心の中では天国で咲く清らかな花として、光り輝く世界で天使や人々を楽しませてくれているのかなあと想像するのも楽しいです。





ありがとう おかげさま 嬉しい縁を 医療でつなぐ  
医療法人 一祐会  
ichiyukai

PON'S 2026 年（発行 2026 年通巻 49 号）

発行：2026 年 1 月

通巻 49 号

企画・取材・編集 / 医療法人 一祐会  
法人広報企画部

寝屋川・藤本病院グループ

医療法人 一祐会

〒 572-0838

大阪府寝屋川市八坂町 2 番 3 号



Instagram で  
情報を発信しています。



産婦人科



リハビ  
リテーション科



介護老人保健施設  
ハーモニー



医療法人  
一祐会